

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24242028

研究課題名(和文) 古代中世東アジアの関所と交通政策

研究課題名(英文) Checkpoint and traffic policy in ancient and medieval East Asia

研究代表者

鷹取 祐司 (TAKATORI, Yuji)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：60434700

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 17,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国漢代の関所である肩水金関遺址から出土した簡牘の分析を基礎として、中国漢代から古代日本にいたる東アジアの交通制度の展開を明らかにすることを目指した。肩水金関漢簡に含まれる通行証を集成しそこに記される文言を基準として分類した結果、漢代の通行証は9種類に分類でき、それらは発給対象や発給目的によって使い分けられていたこと、また、中国唐代の交通制度が日本へと導入される際に、日本の状況に合わせて適宜改変が加えられていたことなどが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This study was intended to clarify expansion of traffic system in ancient and medieval East Asia, including Han and Tang China, ancient Korean Peninsula and Japan, based on analysis of wooden slips excavated at border checkpoint in Han Dynasty "Jian Shui Jin Guan". The study revealed the following; collecting letters of transit included in "Jian Shui Jin Guan Hanjian" and analysis of phrases written in letters of transit, letters of transit in Han Dynasty can be classified into nine classes according to their phrases and properly was used according to the difference of applicant and purpose in those days. To introduce Chinese traffic system into Japan, the traffic system was partly changed according to situation of ancient Japan.

研究分野：東洋史

キーワード：交通制度 関所 肩水金関 漢簡 日唐令 古代中世東アジア

1. 研究開始当初の背景

関所の実態を解明するためには、二つの方向から考察することが必要である。一つは、関所に関わってどのような法令にどのようなことが規定されていたのかという制度面からの考察、もう一つは、関所において日々どのような業務が行われていたのかという運用面からの考察である。

前者については、『唐律疏議』『大唐六典』『令義解』『令集解』といった伝世文献が従来より利用できたが、それに加えて、一九八三年に張家山漢簡が、一九九八年に北宋天聖令が発見されたことによって、漢代の関所に関する規定である津関令や、従来知られなかった唐令条文も利用できるようになった。後者に関しては、唐代では入唐求法僧円珍に発給された過所二通が現存する程度で、漢代についても20世紀初頭以来の出土文字資料に通行証や関所関連文書が幾らか含まれているという状況であった。

関所や交通政策の研究はいわゆる制度史研究の一環になるが、これまでの研究では、前述の伝世文献にみえる法規定を史料とした規定面の考察がほとんどで、日々どのような業務が行われていたかという運用面の考察は、史料的制約もあり、そう多くはないというのが実情であった。

そのような史料状況を大きく変化させたのが肩水金関遺址出土簡である。『肩水金関漢簡』(壹～伍、中西書局、2011-2016)には11500余枚もの簡牘が収録されている上に、これらはほとんどが当時の関所業務に関連して作成された文書等の実物で、関所の実態解明に絶好の史料群である。

このように、『肩水金関漢簡』の刊行によって、漢代の関所については制度面と運用面の両面から考察することが可能となった。『肩水金関漢簡』の刊行を機に本共同研究を開始した所以である。

2. 研究の目的

本研究では、以下の5つの目的を挙げた。

(1) 肩水金関の実態解明

肩水金関出土簡をその内容によって分類し整理する作業を通して、金関においてどのような業務が行われていたのかを明らかにする。

(2) 漢代の交通政策の解明

上記(1)の成果をもとに、肩水金関の果たす機能や設置目的、さらに、漢王朝の交通政策上における金関の位置づけや、関所も含めた漢王朝の交通政策の全体像を明らかにする。

(3) 唐代の関所と交通政策の解明

上記(2)の成果を踏まえて唐王朝の交通政策を検討することで、漢から唐に至るまでの交通政策の変遷やそれぞれの時代的特徴を明らかにする。

(4) 古代中世の朝鮮半島における関所と交通政策の解明

古代中世の朝鮮半島における関所と交通政策については、その史料的制約などにより余り解明されていない状況であるが、上記(1)～(3)の成果を踏まえることで、古代中世の朝鮮半島における関所と交通政策について一層の解明を目指す。

(5) 古代中世の日本における関所と交通政策の解明

上記(3)の成果を踏まえて、唐王朝の律令体制に強く影響されている古代日本の交通政策を考察する。

(6) 古代中世の東アジアにおける関所と交通政策の展開状況の解明

最後に本研究の総括として、中国・朝鮮・日本を含む東アジア地域の古代から中世にいたる関所と交通政策の展開状況を跡付け、相互の関連性と独自性を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 当該時代地域における関所や交通制度に関する知見の共有

本研究には古代中世中国、古代朝鮮半島、古代日本を研究分野とする研究者が参加しているため、本研究が考察対象とする時代地域における関所及び交通制度に関する発表を分担して適宜行い、各時代地域の交通制度に関する知見を共有した。

(2) 肩水金関遺址出土簡の解読

前述のように、本研究は中国漢代の関所である肩水金関の実態解明を基礎として、それ以降の関所や交通政策の展開を明らかにすることを目指したものである。それ故、肩水金関漢簡の解読をメンバー全員が参加する形で継続的に実施した。

(3) 現地調査

肩水金関出土木簡にみえる関所業務をより深く理解するために、肩水金関遺址出土簡牘の実見調査および漢代長城・玉門関遺址の実地調査を実施した。また、韓国において古代から中世にかけての交通関係遺跡の現地調査も実施した。

(4) 個別テーマによる研究発表と討論

肩水金関漢簡の読解と並行しながら、メンバー各々が専門とする時代地域の関所及び交通政策に関する発表を行い、全員による討論を実施した。

4. 研究成果

(1) 共同研究による知見の共有と考察視角や問題意識の深化

本研究では、幅広い地域・時代の専門家が一堂に会することによって、各研究者の専門を超えた範囲の知見を共有することができただけでなく、研究者個人や近接する地域時代の研究者による共同研究では気づかないような指摘を相互にすることによって、新たな分析視角や問題意識を獲得することができた。わかりやすい例を挙げると、漢代史研究者の認識では、漢代の通行証の一種である伝は往復用であるというのが自明であった

が、これに対して、日本史研究者から、日本で出土した過所様木簡は復路用が多いとの指摘があった。この指摘を承けて、漢代の伝についても片道用か往復用かを改めて考えるようになり、そのような問題意識が新たな知見へと繋がっていった。肩水金關漢簡の読解においても同様で、漢代史以外を専門とするメンバーの指摘によって分析が精緻化することがしばしばあった。具体的な成果というわけではないが、これらのことは共同研究であったからこそ実現したことであり、本研究の成果として敢えて挙げておきたい。

(2) 肩水金關漢簡に含まれる通行証の分析

漢代の通行証に関する従来の研究では、通行証は公務出張用と民間人用が区別された上で幾つかの種類があることが指摘されてきたが、個別の通行証については漢簡中の事例が限られていることもあって不明瞭な点も多くあった。本研究期間中に肩水金關遺址出土簡が全簡公表されたことを受けて、肩水金關漢簡に含まれる通行証を集成し、そこに記される文言を基準として分類した。その結果、漢代の通行証は、出入符、亭長符・家屬符、戍卒符、伝、致・致籍、偃檢、毋苛留止通行証、当舍伝舍通行証、書到出入通行証の9種類に分類でき、それらは発給対象や発給目的によって使い分けられていて、発給手続きにも相違があったこと、さらに、一部の通行証は通時的に使用されていたわけではなく使用時期が限定されていたことなどが明らかとなった。

(3) 交通遺跡と交通路との位置関係の確認

古代中世朝鮮半島の港湾遺跡である伴鷗洞遺跡(蔚山)や、関所遺跡である関門城(外東)・ハヌルジェ遮断城(閔慶)などを現地調査することによって、当時の港湾や関所と交通路との位置関係を地形条件の中で理解することができた。また、中国漢代の長城遺址および玉門関遺址などの現地調査することで、長城と関所と交通路の配置関係を具体的に理解することができた。

(4) 漢代通行証の作成過程の確認

肩水金關遺址出土木簡を保管する甘肅省文物考古研究所を訪問し漢簡を実見調査した。そこでは、特に関所通行用の符を詳細に調査し、木材から割符を作成する形成過程を具体的に確認できた。

(5) 中国から日本への交通政策の展開

古代日本の交通制度は、唐代中国より導入した律令を基礎として制定されたものであるが、日本への導入に際して日本の実情に合わせた改変が実施されている。日本令と唐律、特に天聖令中の不行唐令とを逐条的に比較してゆくことによって、日本古代交通制度の特徴として、七道制の重視、都鄙間交通への集約、軍事関連規定の削除、貢納物輸送手段規定の削除を挙げられることがわかった。

以上の成果を『古代中世東アジアの関所と交通制度』として刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計34件)

市大樹, 門籍制に関する一考察, 史聚, 査読無, 50巻, 2017, 27-38

鷹取祐司, 漢代における「守」と「行某事」, 日本秦漢史研究, 査読有, 17巻, 2016, 54-90

松本保宣, 五代中原王朝の朝儀における謝恩儀礼について—正衙謝と中謝—, 東洋史研究, 査読有, 74巻4号, 2016, 70-108

市大樹, 日本古代関制の特質と展開, 歴史科学, 査読無, 222号, 2015, 11-23

田中俊明, 高麗寺院の宿泊機能と新羅—新羅の交通体系研究の一環として—, 龍谷大学仏教文化研究所紀要, 査読無, 53巻, 2015, 149-169

市大樹, 出土文字資料からみた古代の駅家, 考古学ジャーナル, 査読無, 665号, 2015, 24-28

市大樹, 黎明期の日本古代木簡, 国立歴史民俗博物館研究報告, 査読有, 194号, 2015, 65-100

松本保宣, 唐末五代前半期の朝儀について—入閣・起居・常朝を中心に—, 立命館東洋史学, 査読無, 37号, 2014, 1-43

田中俊明, 三世紀東北アジアの国際関係, 朝鮮学報, 査読有, 230号, 2014, 1-29

鷹取祐司, 漢代の居延・肩水地域における文書伝送, 立命館東洋史学, 査読無, 36号, 2013, 1-47

鷹取祐司, 中国新出の木簡, 考古学ジャーナル, 査読無, 649号, 2013, 18-21

鷹取祐司, 里耶秦簡に見える秦人の存在形態, 愛媛大学「資料学」研究会『資料学の方法を探る』, 査読無, 12巻, 2013, 67-84

田中俊明, 正徳本(中宗7年刊本)『三国史記』の歴史学的意義, 新羅学国際学術大会論文集, 査読無, 6巻, 2013, 195-233

三枝暁子, 天正・文禄の大地震と京都改造, 年報都市史研究, 査読有, 20巻, 2013, 79-94

館野和己, 平城京内の固有地名—その予備的検討—, 古代学, 査読有, 5巻, 2013, 14-25

館野和己, 古代都城をめぐる信仰の諸形態,

都城制研究, 査読無, 6 巻, 2013, 1-10

藤田高夫, 蜀の学堂-漢代成都の郡国学, 関西大学文学論集, 査読無, 第 62 巻 4 号, 2013, 1-21

角谷常子, 里耶秦簡における単独簡について, 奈良史学, 査読無, 30 号, 2013, 107-130

馬場基, 文献資料から見た古代の塩, 奈良文化財研究所研究報告『塩の生産・流通と官衛・集落』, 査読無, 12 号, 2013, 11-35

〔学会発表〕(計 34 件)

舘野和己, 古代三関と道, 古代三関シンポジウム, 2017 年 3 月 18 日, 三重県亀山市文化会館大ホール(三重県・亀山市)

市大樹, 日本古代における漢字使用の始まり、モノと文献でわかる古代・わからない古代, 大阪大学文学研究科・フランス国立東洋言語文科大学国際共同シンポジウム, 2016 年 12 月 3 日, 国際交流基金パブリック文化会館ホール(東京都・新宿区)

鷹取祐司, 漢代の人・物の移動と傳・致, 忠北大学校 "大学人力量強化事業団" 主催「東亜地域社会的情報交流と流通」国際学術大会, 2016 年 10 月 28 日, 忠清北道清州市(韓国)

松本保宣, 唐・五代期における聴政と朝会の変容, 唐代史研究会夏期シンポジウム, 2016 年 8 月 23 日, 強羅静雲荘(神奈川県・箱根町)

市大樹, 古文書学から史料学へ-日本古代・中世史の研究分野を中心に-, 第 97 回大阪大学歴史教育研究会例会, 2016 年 6 月 18 日, 大阪大学豊中キャンパス文学研究科本館 2 階大会議室(大阪府・豊中市)

田中俊明, 後百済の呉越航路と新羅, 韓国国立全州博物館主催国際シンポジウム, 2015 年 11 月 27 日, 全州市(韓国)

鷹取祐司, 秦漢時代における官吏の兼任・代行, 日本秦漢史学会 2015 年度(第 27 回)大会, 2015 年 11 月 21 日, 早稲田大学戸山キャンパス(東京都・新宿区)

市大樹, 木簡からみる文化交流-国の成り立ち、文字の成り立ち-, 第 2 回古代歴史文化賞受賞作決定記念シンポジウム, 2015 年 2 月 8 日, 国びきメッセ 3F 国際会議場(島根県・松江市)

鷹取祐司, 漢代詔書下達過程中的御史大夫與丞相, "中国法律史: 史料与方法" 国際学術研討会, 2014 年 12 月 13 日, 広州市(中国)

市大樹, 隠岐国の荷札木簡, 島根県古代文化センターシンポジウム, 2014 年 9 月 14 日, 大社文化うらら館(島根県・出雲市)

松本保宣, 唐制の継受からみる五代朝儀の諸問題, 大阪市立大学・上海師範大学学術交流会《中古時期社会と政治学術研討會》, 2014 年 7 月 26 日, 大阪市立大学経済研究所棟 521 演習室(大阪府・大阪市)

市大樹, 日本古代駅伝制度の特質-日唐比較と山陽道一-, 第 15 回播磨考古学研究集会, 2014 年 2 月 16 日, 姫路市教育会館(兵庫県・姫路市)

市大樹, 木簡から見た 7 世紀後半の東海地方と飛鳥, 「古代東海の文字世界」シンポジウム, 2014 年 2 月 2 日, 名古屋市立博物館(愛知県・名古屋市)

市大樹, 日本古代交通制度の特徴と運用実態-一関の通行行政をめぐって-, 大阪歴史科学協議会 12 月例会, 2013 年 12 月 15 日, 弁天町市民学習センター(大阪府・大阪市)

三枝暁子, 日本中世都市史研究の 20 年-回顧と展望-, 都市史学会シンポジウム, 2013 年 12 月 15 日, 東京大学工学部(東京都・文京区)

三枝暁子, 中世後期の宗教的結合と都市社会, 歴史科学協議会第 47 回大会, 2013 年 11 月 17 日, 仏教大学紫野キャンパス成徳常照館 5 階常照ホール(京都府・京都市)

鷹取祐司, 秦代遷陵県的徒隸與司寇, 2013 年 "中国法律史前沿問題" 国際学術研討会, 2013 年 11 月 9 日, 廈門市思明区党校会務中心酒店(福建省・中国)

市大樹, 木簡から日本古代国家の形成過程を考える, 第 26 回濱田青陵賞授賞式・記念シンポジウム, 2013 年 9 月 21 日, 岸和田市文化会館ホール(大阪府・岸和田市)

松本保宣, 五代の朝儀について-入閣・起居を中心に-, 立命館東洋史学会大会, 2013 年 8 月 24 日, 立命館大学末川記念会館(京都府・京都市)

市大樹, 古代の駅と旅, 斎宮歴史博物館講演会, 2013 年 7 月 7 日, 斎宮歴史博物館(三重県・明和町)

①藤田高夫, 東アジアの木簡と書記文化, 東アジア文化交渉学会第五回年次大会, 2013 年 5 月 10 日, 香港城市大学(香港・中国)

②市大樹, 都の中の文字文化, 国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「古代日本と古代朝

鮮の文字文化交流』,2012年12月15日,イイノホール(東京都・千代田区)

②鷹取祐司,里耶秦簡に見える秦人の存在形態,愛媛大学「資料学」研究会2012年度公開講演会,2012年12月9日,愛媛大学法文学部(愛媛県・松山市)

〔図書〕(計26件)

舘野和己,市大樹,田中俊明,松本保宣,鷹取祐司,立命館大学,『古代中世東アジアの関所と交通制度』,2017年,総335頁

市大樹,塙書房,『日本古代都鄙間交通の研究』,2017年,総686頁

市大樹 他,吉川弘文館,『ここまでわかった飛鳥・藤原京』,2016年,256(143-176)

市大樹,田中俊明 他,和泉書院,『日本古代学論叢』,2016年,564(63-72、461-474)

舘野和己,市大樹,馬場基,田中俊明 他,吉川弘文館,『日本古代の交通・交流・情報1制度と実態』,2016年,325(2-30、31-58、85-104、288-308)

鷹取祐司,汲古書院,『秦漢官文書の基礎的研究』,2015年,総772頁

角谷常子、鷹取祐司 他,岩波書店,『漢簡語彙考証』,2015年,486(69-77、125-132、167-172、179-196、209-215、236-242、245-251、264-269、324-329、361-367、394-399、415-421、427-435)

市大樹 他,第15回播磨考古学研究集会実行委員会,『播磨国の駅家を探る(第15回播磨考古学研究集会の記録)』,2015年,118(33-88)

市大樹,周留城,『飛鳥の木簡』(ハングル語版),2014年,総307頁

市大樹 他,塙書房,『日本古代の国家と王権・社会』,2014年,534(223-243)

市大樹 他,国立歴史民俗博物館,『文字がつなぐ-古代の日本列島と朝鮮半島』,2014年,243(36-43)

市大樹 他,塙書房,『続日本紀と古代社会』,2014年,480(3-24)

市大樹 他,思文閣出版,『交錯する知-衣装・信仰・女性-』,2014年,688(285-303)

市大樹 他,岩波書店『岩波講座 日本歴史 2 古代 2』,2014年,322(251-286)

市大樹 他,大修館書店,『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』,2014年,306(30-51)

舘野和己 他,八木書店,『古代山国の交通と社会』,2013年,408(311-332)

田中俊明 他,檀国大学校東洋学研究院,『古朝鮮・衛満朝鮮と東アジアの古代文化』,2013年,377(279-313)

田中俊明 他,岩波書店,『岩波講座 日本歴史 第1巻 原始・古代 1』,2013年,305(271-305)

松本保宣 他,汲古書院,『東アジア海域叢書 外交史料から十~十四世紀を探る』,2013年,384(77-126)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鷹取 祐司(TAKATORI, Yuji)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号: 60434700

(2) 研究分担者

松本 保宣(MATSUMOTO, Yasunobu)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号: 00351312

田中 俊明(TANAKA, Toshiaki)

滋賀県立大学・人間文化学部・教授

研究者番号: 50183067

馬場 基(BABA, Hajime)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員

研究者番号: 70332195

三枝 暁子(MIEDA, Akiko)

東京大学・文学部・准教授

研究者番号: 70411139

(3) 連携研究者

角谷 常子(SUMIYA, Tsuneko)

奈良大学・文学部・教授

研究者番号: 00280032

藤田 高夫(FUJITA, Takao)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 90298836

舘野 和己(TATEN0, Kazumi)

奈良女子大学・古代学学術研究センター・特任教授

研究者番号: 70171725

市 大樹(ICH1, Hiroki)

大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：00343004